

木質バイオマスの取り組み

2/2 木

つべつウッドロスマルシェ実証事業 成果報告会を開催

津別町森林バイオマス利用推進協議会では現在、木質バイオマスセンターの令和5年5月本格稼働に向け、受け入れ手順や材の買取価格等の仕組みづくりを目的につべつウッドロスマルシェ実証事業を行っています。

つべつウッドロスマルシェイメージ図



2月2日(木)に開催した成果報告会では、町内外31名(Web参加含)の参加があり、令和4年度に行った「つべつウッドロスマルシェ」の実証事業について報告しました。基調講演として、バイオマスエネルギーに関する近況等の情報について、北海道大学の助教である山形氏に講師を務めていただき、津別町のエネルギー事情、道内の木質バイオマスの利用状況、道内の電力状況、それらを踏まえた上で地域での木質バイオマス利用の進め方について講演いただきました。

さらに、道内の木質バイオマス発電について、森林過伐や発生した熱の廃棄等の問題点を多く挙げながらも、「津別町では木質バイオマス利用の構想があり、木質バイオマスによる熱利用が既に進んでいることから、健全な木質バイオマス発電が可能」とのコメントもいただきました。

参加者からのご意見(抜粋)

木質バイオマスには非常に興味があった。

エネルギーの地域循環など津別町でロスなくできたら良い。農業者としても協力出来たらと思う。

私有地に木はたくさんあるが、自分たちで切ることができないほど大きくなっていて搬出が難しい。

バイオマスを電気などに変えて利用ができることがわかった。津別町がこういうものを使って、観光などに発展していければありがたい。またこういうった会があれば参加したい。

今後について

「つべつウッドロスマルシェ」の開催時期等については、詳細が決まり次第、改めてお知らせします。

2月2日に開催された成果報告会の様子



講師紹介 山形 定(やまがた さだむ)さん



北海道大学大学院工学研究院環境工学部門地域環境研究室助教。山形県生まれ、昭和64(1989)年東京大学大学院工学系研究科科学エネルギー工学専攻博士課程を修了後、理化学研究所を経て、同年9月に北海道大学工学部助手となり、現在に至る。大気中微量成分の観測、反応過程の研究に携わりながら、温暖化対策として木質バイオマスの研究にも着手していく。平成25(2013)年からはNPO法人北海道新エネルギー普及促進協会(NEPA)の理事長、各市町村のエネルギー関係委員等にも従事している。